

聴覚障害教育研修  
研修②

**「保育や授業における配慮事項」**  
**Aコース：保育を中心にして**

- 1 聴覚に障害のある子供たちへの関わり方
- 2 ことばの育ちと発音
- 3 保育中の子どもたちの様子 (VTR)
- 4 質問タイム

**1 聴覚に障害のある  
子供たちへの関わり方**

**(1) 乳幼児教育相談(0～2歳)**

- ・ 安定した親子関係作りへの支援
- ・ 子供の全体的な発達への支援
- ・ 補聴器等の装用習慣の定着
- ・ 聴覚を活用する力の養成
- ・ 言語の基盤の育成
- ・ 聴覚に障害のある子供の育て方(保護者支援)

※ 聴神経の発達は2歳前後がピーク  
↓  
早期発見, 早期療育が大切

**<乳幼児教育相談の位置付け>**

<b>聴覚相談センター</b>	<b>きこへの相談</b> 聴力測定やことばに関するアドバイス 対象:本校に在籍していない3歳以上
<b>乳幼児教育相談</b> 個別指導, 集団保育等を通じた子育て支援 対象:3歳未満	<b>通級指導教室</b> きこえやことばの指導 対象:通常学級に在籍している小学生
<b>巡回相談</b> 地域の学校や幼稚園等を訪問して行う相談事業 対象:幼児から高校生	<b>就学・教育相談</b> 学習や就学に関する相談, 体験入学など 対象:幼児から高校生

**<乳幼児教育相談とのつながり>**

**<各機関からの紹介>**

- ・ 医療機関や地域の保健センター
- ・ 補聴器の販売業者

**<その他>**

- ・ 自分でインターネット等で検索
- ・ 知人, 親戚からの薦め

**<3歳以降について>**

- ・ 本校幼稚部
- ・ 地域の幼稚園, 保育園
- ・ 各療育機関


**<現在の乳幼児教育相談の状況>**

在籍児: 30人(0歳児6人, 1歳児9人, 2歳児15人) 7月10日現在

子供の実態に合わせて保育を行っている

- ・ 集団保育(週1～2回)
- ・ 個別指導(週1～月1回程度)
- ・ 聴力測定(定期的)
- ・ 保護者学習会(年3～5回実施)

※ 保護者(母親)指導が中心  
↓  
きこえにくいことに  
配慮した関わり方



① 目と目を合わせて関わりましょう。

関わりの基本です。お互いに心を通い合わせながら関わりましょう。

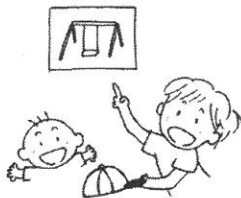


② 大きめの声ではっきりと話し掛けましょう。

身振りをつけながら、擬声語・擬態語などを使って子供に分かりやすく伝えましょう。



③ 実物や絵・写真、身振りなどを使って、子供に伝わるように工夫しましょう。



④ 子供がすることをまねましょう。  
(ミラリング)



⑤ 子供が出している声をまねましょう。  
(モニタリング)



⑥ 子供の行動や気持ちをことばにしてあげましょう。(パラレルトーク)



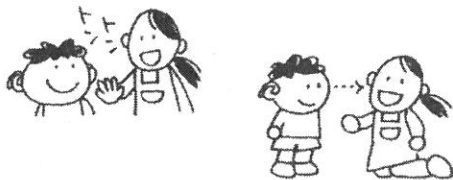
(2) 幼稚部 (3~5歳)

時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
10:00	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
10:40	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
10:50	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
11:30	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
11:30	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
13:40	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
14:00	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園
14:30	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園	幼稚園 幼稚園

- ・ 幼児数:18人  
3歳児:7人 4歳児:6人 5歳児:5人
- ・ 親子で登校し、保護者は保育の様子を参観する。  
(寄宿舎に入舎している幼児は、保育支援員が付き添って通学。)
- ・ 耳から入る情報が制限されるため、きこえる子供たちと同じように活動できないことがある。



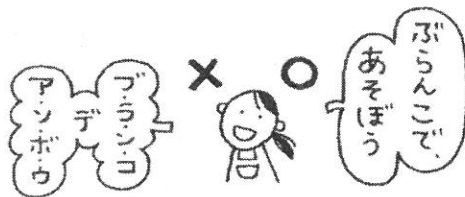
- 肩をたたくなど注意を引いてから、視線を合わせて話します。  
(後ろから話し掛けても、気付かないことがあります。)



- 口元がかくれぬように気を付けます。  
(口の動きや顔の表情が、話の理解を助けます。)



- 言葉のリズムを崩さず、ゆっくり・はっきり話します。  
(自然なリズムが崩れると、逆に分かりにくくなります。)



- 座席は、先生の顔がよく見え、声がきこえる位置にしてください。  
(先生から1.5m以内が適しています。)



① 補聴器・人工内耳の重要性

- ・ 補聴器・人工内耳はおもちゃではないこと
- ・ 大切なものであること
- ・ 壊れやすいものであること
- ・ 触ってはいけないこと など



② 聴覚に障害のある子供のきこえ方

- ・ みんなと同じようにはきこえないこと
- ・ 一度ではきき取りにくいこと
- ・ きき間違ふことがあること など



たほこ  
たまご  
なまこ

た	ば	こ
た	ま	ご
な	ま	こ

③ 発音の不明瞭さ

- ・ 自分自身の声聞きこえにくいことから、正しい発音が定着しにくいこと  
(「せんせい」が「テンテー」になったり、「ぶらんこ」が「ブアンオ」になったりする。)
- ・ 正しい発音ができるように練習をしていること など



2 ことばの育ちと発音

3 保育中の子供たちの様子

～ VTR視聴 ～



4 質問タイム

